

# 私たちの声を聴いてください

## ～私たちのことは私たち抜きで決めないで～

発表者は小西勉さんです。小西さんは、ピープルファースト横浜の代表（知的障がい当事者）で、単身型のグループホームで暮らしています。仕事は、強度行動障害のある方たちが日中活動をしている福祉施設に勤務しています。この日中活動には、やまゆり園事件当時に津久井やまゆり園で暮らしていた仲間（平野さん）もいます。平野さんは、今、平日は毎日、9時～16時まで働いていますが、津久井やまゆり園では、日中活動がほとんど提供されていませんでした。なぜ、そんな環境での暮らしだったのか、疑問をもっています。

今回は、かつて津久井やまゆり園で暮らした経験のある3人の仲間と一緒に参加します。長時間拘束を17年間受けていた、松田さん。親も立ち入ることを許可されない“開かずの寮”で暮らしていた、吉田さん。そして、平野さんです。



\* 中央、原稿を読んでいる小西さん

\* 左から平野さん、吉田さん、松田さん（左奥 椅子に座っている3人）

2020年2月20日、障がい当事者、ピープルファーストの仲間たちが、全国から集まって、「津久井やまゆり園の支援」や「県の障がい者支援のあり方」について、黒岩知事に要望書を手渡しました。

当日は450人の当事者が神奈川県庁に集結。代表の小西会長が、当事者の立場から、事件から受けた恐怖を語って、津久井やまゆり園での支援実態の検証を求めたほか、「暮らす場所

は、家族ではなく自分で決めたい。自分たち抜きで決めないで欲しい」「私たちは障がい者である前に、一人の人間です」「自分の名前も言えない人にも心があります」「意思疎通ができます」「幸せをすることができます。忘れないで下さい」等と訴え、要望書を知事に手渡しました。



黒岩知事は、当事者たちの意見にしっかりと耳を傾け、県として全面的に協力することを力強く宣言しました。



その後、県議会で、複数の政党支部を回り、県と同様に要望書を手渡した後、当事者100人が記者会見を行いました。



\* ピープルファーストとは

ピープルファーストとは、1973年、アメリカのオレゴン州で開かれた会議で、ハンディのある当事者が「知的障害者」とレッテルをはられることがどんなに嫌かということ話し合い、「人にどのように知られたい？」と聞かれ、一人の少女が「わたしたちは障がい者である前に人間だ」と答えたのがきっかけで生まれた。1991年、「ピープルファースト」の全国組織として世界ではじめて「カナダ・ピープルファースト」ができた。そして、アメリカにも組織ができ、その考え方や活動が世界に広がり、日本でも当事者の運動として広がる。「自分たちのことは自分たちで決める」という「自己決定」から始まった当事者運動。





松田さん（やまゆり園の入所前・養護学校）



松田さん（津久井やまゆり園）



（現在）



平野さん（やまゆり園を出た後）

